

歴女がゆく

私が出逢ったディープな中世



高野街道 中編

高野街道の合流と

長野・三日市

長野でひとつに合流する高野街道。往来の人々も多く
長野・三日市は中世から近世にかけて栄えました。



酒蔵通り

Deep!

ココが中世!

長野神社の本殿は室町時代末期に建てられたと考えられ、重要文化財となっています。高野街道を行きかう旅人たちも、旅の安全を祈願していたのかもしれません。



風景ある景観のなかあま酒サイダーでホッと一息つきました。

旧三日市交番の竹鼻さんと

長野神社



長野神社は長野えびすやタイマツタテなどの祭礼でも有名です。



木造薬師如来坐像(鎌倉時代)

増福寺



木造十一面観音立像(平安時代)

月輪寺



西・東高野街道は、河内長野駅前付近でひとつに合流します。近くには長野神社が鎮座し、明治時代以前は「牛頭天王宮」「木屋堂の宮」と呼ばれていました。「木屋堂」は中世から登場する地名で、付近に材木の集積場があったとされています。高野山に参拝した貴族や上皇たちも、この地で宿泊や休憩をしたことが、彼らの日記からわかります。

長野を抜けると三日市に至ります。増福寺や月輪寺、旧三日市交番など、多くの歴史遺産があります。増福寺は南北朝時代の武将、畠山義深が付近で亡くなり、供養のために建てられたと伝わるほか、かつてキリシタンがマリア像として信仰した可能性のある観音像も残ります。

一方、月輪寺の起源は、かつて長野にいた諸越長者が空海から薬師如来坐像を与えられ、長者の死後に妻が三日市にお堂を建て、坐像を祀ったことといわれています。



中世トリビア⑥ 鍾馗像

三日市では、屋根や窓に瓦製の像が置かれている古民家もみられます。これは鍾馗と呼ばれるもので、中国の皇帝が病気になったとき、皇帝の夢に現れて病気を治したという大鬼で、疫病除け・魔除けの神様です。日本では室町～江戸時代に信仰が広がりました。



今回の歴女

木川さん

大学で仏像や仏画について研究しています。今回は貴重な文化財を見ることができ良かったです。実際に現地に足を運び、自分の目で見たことで写真ではわからなかった魅力を感じることができましたね。

